

# 情報研究会報告



## 国際ロータリー第2790地区

2005—06年度

会長・情報委員長

日時 2005年10月10日(日)

場所 ホテル ポートプラザちば

国際ロータリー第2790地区 情報委員会



## 国際ロータリー第2790地区

ガバナー補佐・会長・情報委員長・五年以内の新会員他

### 情報研究会プログラム

#### 議題

13:00～ 登録

13:30～14:45 全体会議 司会：情報委員 常泉健一

- |                      |        |      |
|----------------------|--------|------|
| 1) 点鐘                | ガバナー   | 山中義忠 |
| 2) 国歌斉唱              | 家族委員   | 穴戸久子 |
| 3) ロータリーソング          | 家族委員   | 穴戸久子 |
| 4) 開会挨拶・来賓紹介         | 情報委員長  | 大谷眞夫 |
| 5) ガバナー挨拶            | ガバナー   | 山中義忠 |
| 6) カウンセラー<br>パストガバナー | カウンセラー | 鈴木雅博 |

基調講演 “奉仕について” パストガバナー 渡邊 隆先生

・ ・ ・ ・ 休憩 ・ ・ ・ ・

15:00～16:45 各分区代表発表 司会：情報委員 植草一隆

- |          |      |                       |
|----------|------|-----------------------|
| 1) 第一分区  | 佐伯俊介 | 浦安／出席委員会副委員長          |
| 2) 第二分区  | 岩山修久 | 船橋／情報委員副委員長           |
| 3) 第三分区A | 瀧本昌丞 | 千葉中央／新世代のための委員・親睦活動委員 |
| 4) 第三分区B | 郭 福男 | 千葉緑／会長                |
| 5) 第四分区  | 田中喜博 | 上総／会長エレクト             |
| 6) 第五分区  | 加藤一輝 | 勝浦／副幹事                |
| 7) 第六分区  | 湯原由雄 | 茂原中央／親睦委員長            |
| 8) 第七分区  | 平野敏右 | 旭／職業奉仕委員・プログラム委員      |
| 9) 第八分区  | 高橋利忠 | 小見川／親睦委員              |

10) 第九分区	松田泰長	成田／プログラム委員長
11) 第十分区	升谷 庸	柏西／親睦委員
12) 第十一分区	横山範男	八千代中央／職業奉仕委員長
13) 第十二分区	細田昌男	松戸西／ロータリー財団委員長
14) 第十三分区	高梨昇一郎	野田／副幹事
ガバナーエレクト	白鳥政孝	挨拶
カウンセラー	鈴木雅博	総評

・・・解散・・・

配布資料：

第2790地区ガバナー事務所

“4分間情報（NO1～30）”

各クラブ会長配布

第二期クラブ強化推進委員会作成



地区幹事長／浜名賢一



家族委員／宍戸久子



## 開会の挨拶

情報委員長  
大谷 眞夫

本日は ご多用の中約 400 名の皆様にご参加を頂き 有難う御座いました。関係者一同心から感謝申し上げます。

情報研究会の開催に当たりましては、前年度の杉木年度のガバナー補佐会議でも 様々なご意見も有りましたが、来年度と言うことで検討課題となりました。

我々としては 当地区独自で新入会員の教育の重要性を鑑み継続する方針と致しました。就きましては 今回は第 2790 地区の地区大会として開催することで、皆様のご承諾を頂き本日を迎えました。

様々なご意見もあるかと思いますが、今回の実施結果を見た上で、我々としても検討し皆様のご意見を伺って次年度以降の開催体制も決めていきたいと思っています。

問題は 新入会員全体への教育が重要と考えます。

今回のテーマー “職業を通しての奉仕について” については、ガバナー補佐会議、そして有力者のご意見として、職業委員会のテーマーである・筋が通らない等 様々なご意見を頂戴致しました。

本当に有難う御座いました。

ただ ロータリー入会以来、他のクラブと何が違うのか?・・・との質問に 我々は常に職業を通して奉仕するのがロータリーである・・・と答えて参りました。

私は 是非本問題をやらせて頂きたいと念願致します。

どうか宜しくお願い致します。

山中ガバナーには 大変お忙しい中ご出席を頂き有難うございました。

情報研究会は今説明の通り地区一本で開催致しました。是非ガバナーの御挨拶を頂き広く会員各位との交流を求められており”超我の奉仕“に努められています。

本日もガバナーのご意見を是非皆様にお聞き下さい。

鈴木カウンセラーは今年度からクラブ奉仕委員会のご指導を頂いております。

基本的なお話そして基調講演をご依頼した渡邊パストガバナーのご紹介をお願い致したい  
と思います。

基調講演 渡邊パストガバナーは昨年度までは我々クラブ奉仕委員会のご指導を頂きました。  
又今でもロータリーの友委員長として頑張っておられます。今回はロータリークラブ  
としての“奉仕”についてお話を伺い、我々が希望する“職業を通しての・・・”の  
問題にも触れて頂けるように懇願致しております。

どうぞ宜しくお願い致します。

情報研究会は 会員の特典と責務を想起させる情報を提供する責務が御座います。特に  
新会員への教育・指導等今後とも取り組んで行きたいと念願致しております。

特にこの情報研究会は 全地区を網羅した問題ですので、今後とも発展的な機能を持てる  
ように頑張りたいと思います。

茂原地区には 職業奉仕委員会が進めている“出前教室”が学校・地域の皆様の評価もあ  
り、会員の職業を通しての奉仕が実を結び大変な盛況です。

ご自分の職業と地域の子供達の接点があることが評価されているようです。

情報委員会は他の部門と協調しながら、ロータリー活動を一步なりとも、進めて行きたい  
と思います。

本日は 渡邊パストガバナーから貴重なお話を伺うと共に、14 地区の代表者のご意見を伺  
い、これからのロータリー活動の発展を期したいと存じます。

どうゆう観点から自分の職業とご自分の会社 そして地域の皆様を結びつけるのか・・・  
ご一考を願えれば幸いです。

それでは本日のお集まり頂いたご来賓・関係者のご紹介を簡単にさせていただきます。

## ご来賓及び出席地区委員

(敬称略)

国際ロータリー第 2790 地区	ガバナー	山中義忠
基調講演者・パストガバナー		渡邊 隆
カウンセラー・パストガバナー		鈴木雅博
パストガバナー		北原敬市
パストガバナー		増田 豁
ガバナーエレクト		白鳥政孝
ガバナー補佐	第一分区	関口徳雄
	第二分区	瀧 芳文
	第三分区A	布施敬三
	第四分区	泉 正泰

第五分区	大桃勝彦
第六分区	宍倉一輔
第七分区	佐々木守
第八分区	香取利夫
第九分区	平川 進
第十分区	森下俊夫
第十一分区	長谷川禎一
第十二分区	岡田庄一郎
第十三分区	茂木守之介

地区役員

第2790地区	幹事長	浜名賢一
公共イメージ推進／IT委員長		金谷典幸
会員増強・退会防止委員長		栗原賢一
同	委員	吉田幸男
家族委員会	委員	宍戸久子
情報委員会	委員長	大谷眞夫
	委員	植草一隆
	委員	常泉健一
	委員	畝本一実
船橋南		平野信夫





## 御挨拶

ガバナー  
山中義忠

今年度地区情報研究会に 斯くも多数の方々にご出席戴き、厚く御礼申し上げます。  
本会は原則、入会3年未満の新会員を対象とした研修会ではありますが、同時に寧ろ  
新たな会員皆様方への熱き歓迎の会なのであります。

会員減少に悩む現在のロータリー②あって、新入会の皆様は正に金の卵とも言える  
貴重なる存在なのであります。 来月国際ロータリーが年に1回開催する“第2790地区  
地区大会”において、今年度新入会の皆様を、特別に歓迎する趣向を計画しております。  
是非 胸を張ってご出席下さい。

本日歌いましたロータリー・ソングの歌詞は、それはロータリアンならば何十回も、  
何百回も歌っているのですが、奉仕の理想は、そう世界平和なのであります。

ロータリーは平和団体ではありませんが、記念すべき101年目を迎えた今この時、  
世界平和を理想ではなく、現実とする奉仕行動を実践しなければなりません。

ロータリーは、個人、個クラブより成り立つ奉仕団体であります。 そうロータリーは  
人なのであります。 その人とは優良、良質なロータリアンであり、これは  
ロータリー米山記念奨学会にも相通ずる量よりも質の、改革をする人なのであります。  
本年度ロータリーのテーマは ” 超我の奉仕 “ で 超我は、そっと他に与える愛、  
愛は 争いと戦いを生まぬ平和、奉仕は其の行動、よって超我の奉仕は、愛と平和の  
実践であり、奉仕の理想の実現なのであります。

本日の研究会が、実り多きものとなることを祈っております。





## 御挨拶

カウンセラー・パストガバナー  
鈴木雅博

国際ロータリー第2790地区内 14分区のガバナー補佐の皆様始め地区内 85クラブの  
会長さん・ロータリー情報委員会委員長さん・そしてロータリー入会5年以内の会員の皆  
様に参加戴きましたの「ロータリー情報研究会」が、地区を一体として今日開催されます。  
ご参加戴きました皆様には、ご多用の中をご出席下され 真にご苦勞様で御座います。  
更にパストガバナーの渡邊先生には、本日 基調講演をお願い致しました処、ご多用の  
中とは存じますが、快くお引き受け下されました。

御好意に感謝申し上げます。

更に、本日の設営には、地区クラブ奉仕委員会・情報委員会・両委員会の大谷委員長さん  
始め委員会の皆さんが周到に準備される等、大変なご苦勞されて居られます。

心より労いを申し上げご配慮に感謝したいと思います。

さて、ロータリー情報研究会は、1987-1988年度に齊藤 博ガバナーの提唱によ  
って当地区独自のプログラムとして始まり現在に至って居ります。

始めは、各分区毎に開催されて居りましたが、今年度初めて地区全体を一つとして開催され  
ます。分区毎による異なった角度からのロータリー情報の研究と情報の捉え方をするより  
も、地区一体の意見交換や情報の研究が為される事は、ロータリーを考える上での利点が  
在るのではないかと考えられます。

そして、85クラブの皆さんが、時と所を同じくして、ロータリーの情報を研究し  
ロータリーの本質を理解する事は「ロータリーの奉仕」を如何に進めるかに対して、極め  
て重要な事であります。

ロータリーの手続きのインフォメーションも疎かにしてはなりません、肝心なのは、  
「ロータリーの思想」「ロータリーの哲学」を如何に自分のものに出来かであります。

ロータリーの此れからの100年に向けて、ロータリーの思想・ロータリーの哲学を正しく理解し実践して行く為にも、本日を有意義に活用して下さいます様お願いしてカウンセラーの挨拶とします。



## 基調講演



### 「超我の奉仕」とはなにか

パスト・ガバナー  
渡邊 隆先生

皆さん 今日。折角の連休の一日をお勉強のために お集まりいただいて、まことに恐縮でございます。昨年度まで 地区クラブ奉仕委員会のカウンセラーを担当していた関係で、今日は 鈴木現カウンセラーの御下命で、皆さんに親しくお目にかかる機会をいただき光榮に存じます。

さて、本年度はロータリーとして、100+1の新たな試みを開始する年度にあたりますが、今年のテーマは初心に返って「超我の奉仕」ということになりました。まさに温故知新「古きを尋ねて新しきを知る」ことは まことに大切なことではないかと・・・と思います。そこで、まず私自身のことについて、表し方を反省してみたい と思いますが、私は先程のご紹介のように、習志野クラブの所属でございまして、職業分類は弁護士でございます。ほとんど民事専門の弁護士です。

クラブ入会は昭和49年の10月。私が東京から習志野へ越してまいりまして、ちょうど10年経っておりました。その当時、まだ周囲にあまり友達もいないし、そろそろ、また東京へ戻ろうかと考え始めていた頃、近所の方の紹介で入会することになりました。

それから既に31年が経過いたしました。極めて逆説的な言い方をしますと、この間、よくやめもせず今日まで31年も、もってきたな・・・というのが偽りのない実感でございます。正直かどうか入会直後の2～3ヶ月というものは、いつやめようか、と思ったことがないわけではありません。今日ではそういう事は全くありませんが、31年間の最初の頃、2～3ヶ月の間は、いつやめようかと思っていたのと裏腹に、当初は半ば意地づくで出席を続けておりました、8年間100%出席を続けることができました。

そして入会3年目には会報委員長をやらされまして、1年間週報作りに専念いたしました。

これも私の意地で1年間全部の号について、直接・間接に作成に関与いたしました。これが私のロータリーに対する理解に大いに役立つように思います。こうして曲がりなりにも ともかく100%出席を続けている間に、ある程度クラブ内において、座り心地も落ち着いて参りました。

このようになじみ親しむようになって、親しい友人ができてからというものは、私の生活の上で強力な援軍を得たようなものですから、いつか習志野クラブのある会員が入会の際“ロータリーに入って一度も50人もの友達ができたといい事は素晴らしい事です”と述懐したことがあります。この一度に50人もの友達ができたといい感想は実によく、ロータリーの実態とロータリーのありようを極めて簡潔に言い表したものと感銘を深くしたわけですが、実際に1クラブ40～60人、千葉県内では現在3000人余のロータリアンがおり、全世界では120万人に達する、共通の目的をもつ仲間がいるわけで、善意で結び合っている仲間がこれだけいるということは、それだけでも実に素晴らしく心強いことではないか、と思います。

しかも、ただ友人がいるから素晴らしいというだけではない。もっと大事なことは、それらの友人に対して、それぞれの職業を通じて、直接にかかわり合うことができる、ということです。もっと単刀直入に言えば、私の職業についてみれば、例えば、1クラブ50人の友人がそれぞれに有力な依頼者になりうる可能性があったということです。実際に入会以来今日まで、直接・間接に自分の職業の上で関係をもつことができた方々は、優に全会員の90%を超えています。つまり、クラブのほとんど90%以上の方々と 何らかの意味で私の仕事の上でつながりを持つことができたという事は、実に大変な事だと思えます。同時に本当に幸せなことであった、と心から感謝しております。

恐らくポール・ハリスは1業種1人というロータリーの着想も、当初はこんなところに狙いがあったのではないのでしょうか。各人がその職業を通じてサービスし合い、奉仕し合うという関係。案外これが基本的な、しかも、最も重要なロータリーの要素だったのではないかと、私は今日までの経験を通じて、そう確信しております。

もちろん、それだけに終始して、単なる相互扶助にとどまり、いわば一つの集団内の便益の供与だけに終わってしまう、ということは消極的すぎるかもしれません、少なくともそれが基本的にあることは否定できないし、否定する必要もない。

そして、その基本を土台とした上で、そこからさらに目を転じ、視野を広めて社会全体に、あるいは、国際社会を対象として もろもろのサービスを要請され、それに応えていかなければならないのだろうと思います。ことの次第として、それは当然のことではないかと思えます。

もう一度、私自身のことには立ち返って言うならば、入会してから5年目に社会奉仕委員長を務め、昭和54年、これは当時、隣の八千代クラブと共同で実施したのですが、身体障害者の施設を慰問して車椅子を贈呈し、さらに身体障害児の観劇招待を始めて手がけそのご、約10年間毎年継続して実施されました。

それから56年には国際奉仕の分野において、交換学生のホームステイのために、3ヶ月間私の家で女子学生のお世話をいたしました。これもなかなか骨の折れる厄介な仕事には違いありませんでしたけども、しかしそうした個々の体験の積み重ねによって、ロータリーに対する理解が一段と深まったように思いますし、ロータリーに対する愛着が生まれ、同時に所属クラブに対する関係においても、いよいよ密接になって来たように思います。そこで改めて考えます事は、これまで長々と述べてきた私の個人的な体験の推移とロータリーの発展の歴史とを対比してみた場合に、いかに符号と一致していることが多いか、という事に気がつくわけです。つまりロータリーの発展も略同じような経過を辿ったのではないかという思いがいたします。

皆さん、ご承知のように、ロータリーの発祥は1905年（日本では日露西戦争の始まった翌年の明治38年）2月23日、シカゴにおいて1人の青年弁護士ポール・ハリスの発想から始まったといわれております。この日集まった者はポールを始めとして4人です。当時ポール・ハリスは37歳。シカゴで弁護士を開業してまだいくらか経っておりません。ポール自身の語るところによれば、彼はアイオワ大学を卒業して後5年間、アメリカ大陸を放浪したり、イギリスへ渡って様々な経験を重ねた上で、シカゴで弁護士を開業したわけです。これが1896年のことです。しかし彼の自伝を見ますと「弁護士を開業ということは 予想以上に難しいことであった。弁護士事務所の看板を出すことは簡単なことである。それで多くの人をひきつけようなどと思っていたわけではなかったのだが、それが完全に無視されようとは思ってもいなかった。覚えている限りでは、私の商売は開店休業であった。」（ロータリーへの道）という状態だったということです。

彼の故郷は ヴァーモント州ウオーリングフォードという所ですが、たった一人で郷里を離れシカゴで開業したところで、もちろん、そう多く友達がいるわけではありません。しかもその頃のシカゴは「悪徳と腐敗の街」だったといわれています。

例のシカゴの大火災の直後で人心は極度の荒廃し、商取引において詐欺まがいの行為が、日常公然とまかり通っていた状態だったということです。ポール・ハリスは、ここで弁護士を開業して正に孤軍奮闘していたのだらうと思います。そういう孤独の中から「1業種1人」というロータリーの組織が生まれてきたわけです。

4人の友人達が集まったときにポールは言います。「職業の違う者が定期的集まろうではないか。」「事業人も必ず心からの友人になれるはずではないか。」と熱心に説いたといわれます。そしてその背景には 各人の職業を通じてお互いに助け合える、あるいは助け合おうという考えがあったらうと思います。これが正に”ロータリーの原点“ではないのか。1906年1月に制定された最初の定款の第一条に「会員の職業上の利益の増進」ということが掲げられていることからしても、このことは明らかです。いわば相互扶助ということ。しかし、この時の会員に大企業出身の人は1人もいなかった。こじんまりとした会合であったことに注目して下さい。いわば生きるための必要から生まれた、切実な要請の結果であったといっても良い。例えば、当時の例会において、前回の例会後一週間

の間に、会員間においてなされた取引高の実績を、互いに報告し合ったと伝えられていますし、“You scratch my back”（あなたが 私の背中を搔いてくれる）という言葉に象徴されるような関係が、相互に期待されていたことがよく判ります。

いふなれば、相互扶助ということが、まずその原点であったのであります。

しかしながら、ただ単に、それのみに止まっていたとしたら、ロータリーは今日みられるような隆昌を来たすことは出来なかつたろうと思います。すぐに間もなく相互扶助の狭い枠から脱して、目を大きく社会に見開き、さらに定款につけ加えて「シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠心を鼓舞すること」と言う一条が加えられました。

このようにして、ロータリーに一つの転機が訪れます。具体的には、シカゴ市内に公衆便所を作るという社会奉仕として表れるわけですが、さらに、職業奉仕の面について言えば「相互扶助」だけではあまりに閉鎖的で、将来必ず行きづまる時が来るであろうという批判が内部から出て参ります。そしてこのドナルド・カーターの鋭い良心的な批判に応じて1908年には、アーサー・シェルドンの提唱によって、「普遍的な職業倫理の確立」の重要さが強調されるに至ったのであります。ついで、1911年には そこから一段と進展して、オレゴン州ポートランドの大会において、ロータリーの二大標語として、今日我々の指針となっている「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」に象徴される、いわゆる「奉仕の理想」の実践と言う崇高な目標が設定、自覚されることになったのであります。そして、その一方で組織の上の拡大としては、やがてアメリカから

イギリスに広がり、一層国際化するに従って、国際間の理解と親善に役立つことを通じて世界平和のために奉仕するという遠大な目標が設定されたことは、既に充分ご承知のとおりです。そして最近では、より具体的には、世界社会奉仕活動として目覚ましい実績を上げつつあることは、今更いうまでもありません。

ところで、この機会に一言触れておきたいことは、ロータリーとライオンズクラブの関係についてですが、ライオンズクラブは1917年に創立されています。創立したのはメルビン・ジョーンズという人で、この人はロータリーの個人的な奉仕に飽き足らず、新しく別にライオンズを作ったわけですが、彼は単なる個人の奉仕ではなくして、団体として奉仕活動を実践すべきではないかというのがその主張の概要です。従ってライオンズでは“*We serve*”ということが、そのモットーなっております。ここの我々ロータリーとの差があるわけです。本来我々ロータリーは職業奉仕を目標とする個人からなる団体であって、個人の奉仕を主眼として、そこに重きをおく団体です。単なる慈善団体ではありません。まして、団体として資金を提供すればそれであり、というだけのものではありません。私どもの目標は、個人として自己の職業を通じて、その実践倫理を実現することによって、広く他人のため・社会のためにいささかなりとも貢献しようとするものです。ここにライオンズとは本質的な差異があるといってもよい・・・と私は思います。

しかしながら、ロータリーの歴史の中で、メルビン・ジョーンズの投じた一石は、我々に反省をせまると言う意味で確かに大きなものがありました。それが、やがて1923年のセントルイスの国際大会において決議34として白熱的な議論の結果決定されるに至ります。そしてこの際、私が協調しておきたいことは、例の決議23-34において明らかにされたロータリー活動の原則にかかわる宣言のことであります。

すなわち、そこにおいて、白熱的な議論の末に採決された結論の一つに こうゆう文句がございます。「奉仕するものは行動しなければならない。従ってロータリーとは、単なる心構えのことでなく、又 ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それお客観的なものとして表さなければならない。そしてそれは、ロータリー個人も、奉仕の理論を実践に移さなければならない。」ということであります。

と同時に、もうひとつこの決議23-34の中に注目すべき決定的に重大な宣言がございます。これはもちろん、皆さん誰もがご存知のことと存じますが、改めて申し上げますと、利己と利他の調和の尊重すべきことを説いた次のような宣言であります。

すなわち、「ロータリーとは基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と、義務及びこれに伴う他人の為にしたいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。」そしてその意思を優先させる生き方が、いかに大切かということであります。つまり、われわれが奉仕の理想としてかかげる「超我の奉仕」の根幹をなすものは、他に対する思いやり、他人の立場を配慮する人の心の優しさであります。換言すれば、自己に対する厳しさによる内省を伴う他に対する心くばりということでありましょう。

そして他人との共生を計ることは、さらに広く他国との共存共栄を目指すことにもつながり、やがて世界平和を希望する大道へと通じている筈であります。

以上、約100年の歴史を大急ぎで概観しましたが、これについてポール・ハリスは次のように言っています。「この世は変遷する。我々は変遷する世界とともに変遷する用意がなければならない。」と。しかし、どのように変わろうとも、その根底にあるものは、自らの職業を通じて奉仕すること、他の為によかれと尽くすという、「奉仕の理想」は全く変わりがありません。そして、それはあくまで個人の善意が出発点であり、同時に目標であり、そしてそれが永い目でみた場合、職業上の成功を得る秘訣であろうと私は確信しております。あの経営学者として有名なドラッカーが言っています。「仲間のうちで友情を暖め合っ  
て利益を守ろうという時代は去りつつある。いまやサービスの時代として、広く他人の利益を守ることによって、自分の糧を得るのである。」いまや他に対するサービスを先行させるべきだという事です。これこそ、正にロータリーの真髄であろうと私は思います。

つまり、それは相手の立場に立ってその要求に耳を傾け、こちらの商品と満足とを提供し、そしてこちらはその対価と感謝とを得るという、いわば経営の科学です。それが我々の奉仕であり、「奉仕の理想」であり、奉仕の哲学ではないかと私は思います。

そして、言葉を変えて整理して言えば、ロータリーとは職業人の集団であります。そしてロータリーにとって最大の関心事は、その会員である職業人が、自己の職業に従事するに

あたって、どういう心構えでこれに臨み、実際にどう行動するのが最も妥当なのか、ということ問い続けることであります。そして、このことこそロータリーの根幹をなす最も重要な命題なのであって、この命題は、ロータリーの発祥から今日に至るまで全く一貫して変わらないし、また将来も絶対に変えてはならない生命線であろうと私は確信しております。そして、それがいわゆる「超越の奉仕」における奉仕ということの本来的な意義ではない・・・と思います。

問題はロータリアン各人が、このロータリーの奉仕ということ、各人の問題として、実際に自分の生活の中で どう位置づけてゆくか、ということであろうと思います。

それはロータリアン 1 人が、各人の哲学なり、広く各人の人生観、各人の生き方の問題として、どう対処するかということではないかと思えます。

「超我の奉仕」というロータリーの高く掲げた目標を自分の生活の中で、どう位置づけていくかを真剣に反省し実践することが求められているのではないのでしょうか。

そこで、今日は皆さんに貴重な言葉をお土産にお伝えしておきたいと思えます。

それは「ロータリーの友」の創刊号に紹介されていた すばらしい次のような言葉です。

“I am only one, but I am one”

「私は たった一人にすぎない。それでも 1 人ではあるのだ」

ということであります。1 人ですべてを果たすことはできない。しかし、だからと言って、1 人でも出来ることはある筈だということです。1 人でも なにごとかをなすことはできる。ロータリアンたる者、まずなにごとかを実行することが大事なのだということです。

どうぞ、もう一度さきに引用した決議 23-34 の一節を思い起こして下さい。

but I am one—それがまことのロータリアンとしての生きる道だということでもあります。

いささか駄弁を弄しすぎたかもしれません。最後にもう一つだけ、ポール・ハリスのおばあさんの言葉として伝えられている言葉をご紹介します、私のお話を終わります。

「ポールよ、あなたは世の中の人々に大きな借りがありますよ。1 人前になった今、一生懸命働いて、その恩返しをするように、立派に生きていきなさい・・・」

ポール・ハリスは、このおばあさんの言葉を終生忘れることがなかったそうであります。ご清聴 ありがとうございます。



## 各分区代表者意見発表



### “各職業を通しての奉仕について”

第一分区 佐伯 俊之

浦安ロータリー／出席委員会副委員長

1年3ヶ月前に入会させていただき、浦安クラブの諸先輩と例会やそれいがいの機会にいろいろとお話をさせていただく中で、ロータリークラブのことやロータリアンとしての様々なことについて勉強させていただいています。

本日のテーマは[職業を通しての奉仕]をベースに、ということですので、普段勉強をさせていただいている中から感じたことをなどを発表させて戴きたいと思います。

自分の仕事をしていく時に、ロータリーの精神に乗っ取って物事を考えることで、自然に「職業を通しての奉仕」になるのではないかと感じます。例えば、いろいろなしがらみなどでなかなか実行できていませんが、仕事をしていく中で何かの判断をしなければならぬ時に[四つのテスト]を頭の中でつぶやいてから判断をする等です。

自分自身に当てはめてみますと、私は保険業に携わっていますので、仕事上世の中の方の不幸に接することが多いのですが、先日「足長育成会」の募金活動のお手伝いをして参りました。皆さんご存知のように「足長育成会」は大黒柱のお父さんを亡くして学校に行くお金が足りない子供たちが募金活動をして学校に行くというものです。

募金活動の合間話を聞くと、亡くなったお父さんは保険金を残してくれているのですが、その平均保険金額は約400万円だそうです。

年収400万円のご家庭はだと年収一年分にしかありません。

いろいろな保険会社の一押し商品は、保険会社や営業の方にとっては一押しなのですが、お客様にとっては そうではないことが往々にしてあります。

私の契約高が低くなるとしても、その家庭や、会社であればその会社にとって本当に必要な保険金額を確保できるような保険を選択するような、誠実な仕事をするを心がけていくことも大事なことでないかと・・・考えさせられています。

今、四つのテストを言えと言われると、どぎまぎしていますが、仕事をしていく中で何かの折にはなるべく思い出せるようになればいいと思っています。



## 第二分区 岩山 修久 船橋ロータリークラブ／情報委員会副委員長

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました船橋ロータリークラブの岩山でございます。入会して15年目になり現在、情報委員会副委員長をしております。職業はJR船橋駅近くの“清浄庵”という庵で裏千家の茶道を教え、茶事の出張講師をしています。

趣味はオートバイで、特にオフロード系のトライアルが好きです。現在は家内から乗車禁止命令が出ておりまして、時々甥のバイクを借りてそっと楽しんでおります。

本日は「職業を通しての奉仕」というテーマで発表させていただきます。

茶道は、鎌倉時代禅僧により中国から伝えられ、やがて武士・町民の教養として広まり、一般に女性が習えるようになったのは明治からになります。

茶道の基本は「茶事」です。内容は懐石・初炭・濃茶・後炭・薄茶で、およそ4時間余りかかり、懐石ではお酒がでます。皆さんがご存知のお菓子とお茶だけでいただくのは、かなり省略された姿であることをご理解ください。

茶道は堅苦しい、足がしびれる、手続きが面倒だ、などで敬遠されますが、噂だけで知らずに そうだろうと決め付けているかたが多いと思います。そこで皆様にイメージの世界に入ってください茶道を体験していただこうと思います。

どうぞ肩の力を抜いて、目を閉じゆったりとしてください。

緑に囲まれた庭（露地）に出ました。しっとりとした打ち水を含んだ敷石を踏んで茶屋に通ずる道を関守石に導かれ歩いてまいります。まわりを見渡すと手入れの行き届いた木々が静かにたたずみ、緑の風が心地よくそよぐ。飛び石の変化を楽しみながら歩いて行くと腰掛待合（腰を掛けられる粗末な庵）があり、円座（丸く編みこんだ物）に座り煙草を一服しながら露地の景色を楽しみます。やがて主人が現れ、門とも言えないような粗末な枝折り戸を開けて招き入れてくれます。さらに、苔の起伏も美しく木々の葉陰へと続いている路

地をゆっくりと歩みます。清らかな水の音がしている、青竹の掛井から落ちる水が蹲踞に注ぎこまれていた。さらに蹲踞から流れ落ちる水が何百年も時代を経た石肌を清めるように濡らしている。石肌に付いた苔は緑の太陽のように美しい。杓一杯の水で手を洗い、口をすすぎ身も心も清浄にして席中へと向かうのである。狭い入り口がある、躡り口である。躡り口を開け入ると、たき込められていた香のかおりが身を引き締める。床の間には墨蹟が掛けられ、一輪の花が季節を語り、釜の沸く音が静かにしている。席中は世俗から離れた別世界が準備されていた。客を迎える主人の気持ちが、憎いまでに伝わってくる。

この後、主人手作りの懐石を頂き、心を込めて茶は点てられ、一碗の茶を頂くのである。主客は会話を楽しみ、あるいは無言のまま静かに時は流れ、心が無限に広がり始める。などなど・・・。

ご協力ありがとうございました。どうぞ目を開けてください。

茶の湯の世界に触れて頂けましたでしょうか。粗末な枝折戸は世俗的・物理的にいう門としては、家を守るという事は出来ないのです、露地のそれはその観念をまったく打ち破る。次元を異にする世界を意識させようとしているのである。躡り口は、何人も身をかがめなくては入れないようになっている、万人平等の思想である。

かたちだけ習っても茶の湯は成らないのです、精神的基盤があって成り立っていることがお分かりいただけたと思います。

話は変わりますが、日本伝統文化の紹介ということで私の師匠、塩月弥栄子師のお供をして外国へ茶道のデモンストレーションに行くことがあります。ヨーロッパやアメリカでの事ですが、デモンストレーション中は熱心に見入り咳ひとつ聞こえない状態です。

彼等は日本の伝統文化を深く受け入れてくれます。お茶をさしあげる別席では、現地の方がたくさんの質問をしてきます。洗練された手前や所作、清める動作がとても神秘的に見える事、歴史的なこと、精神的なことなども。キリスト教をはじめとしていずれかの宗教に属している彼等は、キリスト教の精神的なものは茶道に何か影響しているか、茶碗をまわすのは何故かなど、多義にわたります。彼等からは、文化に対して優しく大切にしようとする気持ちや親近感が伝わってくるのです。

最後に、私達ロータリアンが自国の文化を理解し大切に育て伝える。それぞれの国を大切にして人と人との和お尊び、文化を知ること、学ぶこと、実践することは次の世代に伝える力になると思います。

そしてその事により、あなたに新しい風が吹き込んでくれるかも知れません。

ご清聴 ありがとうございました。



第三分区A 瀧本 昌丞

千葉中央ロータリークラブ／新世代のための委員・親睦活動委員

入会して 1年7ヶ月が経過しましたが、まだまだわからないことばかりです。私の職業を奉仕の一部 また社会に対する貢献として強く意識したことはありませんでした。

けれどもクラブ内外のロータリー諸先輩方とお話をするにつれて、今まで通り例会に出席し クラブ親睦・クラブ活動をしていくことが、職業奉仕・社会奉仕の基本であるのだと、再認識しています。

と言うのも、ロータリアンでなくとも生業を持っている人々は、皆何かしらの形で職業を通じて 社会奉仕をしているのではないのでしょうか。

ロータリアンだから何か特別な意識を持ってというのではなく、良識ある社会人として クラブ奉仕を行えるように例会にきちんと出席し、クラブ活動・クラブ懇親をはかっていきたいと考えています。

健全で活発なクラブ活動を通じてのクラブ奉仕 さらに職業奉仕 そこから社会奉仕の考えに沿っていけるのではないかと思います。

私は まだその一番最初の入り口に立っているだけなのだ・・・と思っています。



第三分区B 郭 福男  
千葉緑ロータリークラブ／会長

第325回例会（平成17年9月20日）にロータリー情報委員長による職業を通しての奉仕について「四つの反省」「職業宣言」などを参考にし、三つの各テーブルにロータリー経験の長さが偏らないように分け 其々のテーマについて討論いたしました。

- ① テーブル・・・まずロータリーにはロータリーでしか通用しない言葉があり、世間一般人に理解していただくのには無理がある。我々自身もすべてのロータリー用語を100%熟知している人は殆どいない。まず、職業によって奉仕に対する温度差があり、その手段に線を引くことが難しいこともある。（何処までが利益追求で、どこからが職業奉仕なのか等）
- ② テーブル・・・ 職業奉仕の原点は、まず自身の企業等が健全で利益を出していることにある。企業経営が良好に経営されていなければ、職業奉仕はおろかロータリー活動自体ができなくなる。一番の職業奉仕は、一生懸命に働き税金を沢山納めること。そうすれば、国も富み経済もよくなる。そしてロータリー入会者も増え、その中には財団／米山等に理解をもち多大な協力をする人たちもきっと存在する。
- ③ テーブル・・・職業奉仕とは、その職業について理解していただけるかにあると思います。販売・診療・建築・工事・各種サービス・飲食等々の職業についても、お客に理解して、納得していただけるかが最大の奉仕だと考えます。そしてお客様に喜んでいただいた利益の中から、地域の活性化や和を構築できるような事業をロータリークラブが実行しロータリークラブの認知度と活動の理解を地域の人たちに認識していただくことが、職業を通しての奉仕であると思います。

各テーブルから以上のお話が集約されて、出されました。

ロータリーの綱領、原則を意識し、意識する方策を考えながら、各会員間の理解を育むことを総括としました。



#### 第四分区 田中 喜博

上総ロータリークラブ／会長エレクト

##### 出前教室について

私は上総ロータリークラブの田中喜博と言います。我がクラブには、田中と言われる会員が3名おりますので、フルネームで紹介させていただきました。

当クラブは23名の大変アットホームなクラブで、殆どの人が地元出身です。

本題に入らせていただきます。

..昨年の6月位から出前教室“の計画を練り、その後、.学校にも打ち合わせにいておりましたが、なかなか返事が返って来ませんでした。どうなっているのか？ その学校に確認いたしましたが、どうも乗る気では無い様で 一回目の出前教室の計画はポシャりました。その後、クラブの理事会等で協議をして何とか出来る学校は無いのか（クラブ内に中学校が4校あり）と話し合いました。.

今年の.2月の終わりに地元の久留里中学校の校長先生に卓話をお願いしました。その折に出前教室の趣旨と開催のお願いを致しました。当クラブでは、その学校の現役のPTAの会長や副会長や、また以前、会長をやった人もおりました。それから、何日もしない間に良い返事が校長先生から返ってきました。実施日は今年の4月26日と決定。対象は中学3年生2クラスで、一クラスを45分授業で二授業をやる事になりました。

さてそれから、学校との打ち合わせです。私は、測量設計の会社をしておりますが、中学校で習っていることが、社会に役立つことを教えたいな・・・と思いました。また、3年生なので受験にも役立つ事も教えたいと思いました。そこで、学校より数学の教科書、高校の受験で出た問題集等の参考書を借り、測量の実習を通し、土地の面積の出し方をおしえる事にしました。早速、数学の担当の先生と打ち合わせを行い、実習20分、移動5分、授業20分でカリキュラムを作りました。担当の先生のアドバイスで、実習は測量の機械を2台持って行きました。

資料の一枚目は“ロータリーの友”8月号の掲載されたものです。

二枚目の写真を見て頂ければ分かる通り、生徒達は興味深く楽しそうにしておりました。三枚目の写真ですが、会場を体育館に変えての授業です。実習で測った土地の面積を三角形の面積を出しながら、計算をする方法を教えました。一生懸命に計算をして答えを出す生徒も居れば、中には約20分の授業の間に5回も6回もアクビをする生徒もおりましたが、私にとっては、大変貴重な経験をさせて頂きました。

先生からは、来年も又やっていただけたら、とのうれしい反応もありました。

結びに三点ほど述べさせて頂きます。

- 一、校長先生を卓話と呼ぶ。
- 二、担当の先生と打ち合わせをする。
- 三、後日、お礼に伺う。

校長先生を卓話と呼ぶ事によって、学校の都合が分かり出前教室が開催しやすい。

また、日にちの手配等して貰える。

担当の先生と打ち合わせをする事によって、学校側の要望を生に聞く事が出来る。

後日、お礼に伺う事によって どうだったのか？感想を伺う事が出来る。また次回の出前教室につながる。

ご静聴ありがとうございました。



第五分区 加藤 一輝

勝浦ロータリークラブ／クラブ会報委員長

私の職業は、ある会社の金属アルミニウム精錬工場で過去40数年にわたり仕事をしてきましたので職業分類上、金属アルミニウムに分類されます。当時のアルミニウム精錬業界では、“欧米に追いつけ追い越せ”の合言葉のもと、国や会社のため一生懸命に働いたものです。その間、二度に渡るオイルショックに見舞われ、国内のアルミニウム精錬業界は壊滅的な打撃を受けました。ご存知のように、アルミニウム精錬事業は電気の缶詰めとも言われているように沢山の電力量を消費します。その元になっていた石油が、高騰したのですから堪りません。現在、日本における、アルミニウム精錬事業は自家水力発電を所有している、或る一社だけが生産を続けています。

私は「ポール・ハリスの言葉」と言う本を読み、ロータリー活動の原点を見ることができました。そのテーマは“職業奉仕こそ本道”でありロータリアン自身が携わる職業こそ社会に奉仕する最も手短な方法であると思います。

それは当然のことで、職業こそ自分にとって最も身近なものであり、私達が住みよい社会を作るために一役買おう、などと努める必要はないと思います。そんなことをするより身近な仲間たちに焦点をあて、希望と活力を如何にして見つけだすかが大事だと思います。その新しい探究心こそが“より良い奉仕”の道ではないかと思うようになりました。

ごく当たり前のことですが、組織が大きくなると常識が通じなくなってしまうものです。或るガバナーの話によりますと、①約束を守れ、②賄賂を贈る勿れ、③慈善事業に没頭する勿れと、訓令を掲げてロータリアンを厳しく戒めています。このように真正面からこういうことを言えるガバナーも最近いなくなってきたように思います。

次のテーマは“好みに合うことをすれば良い”ということですが、どんな奉仕をするかについては、さほど関心を持っていないのです。それより問題は、ロータリーが高唱する「超我の奉仕」を成し遂げるか否かであると思います。どんなことであれ役に立つ努力をしているのに、これをやめろと言われれば、誰でも辛い思いをするのではないのでしょうか。それぞれクラブの事情や会員個人の好みもありますので、それに一番適合した選択の道を委ねる事が、最良の結果を得るものと私は信じています。そして、自分がもし他の人と同じ経験を持っていたら、恐らく Good Will ということを良いことにして外のことに眼もくれなかったらと思います。反対に、悲惨な経験をしていたら、依然仕事をしてきたアルミ精錬業界の職場で笑いものになっていたことでしょう。

多くのロータリアンの中には、人々に暖かい手を差し伸べ、次世代を担う青少年のために尽くす人もあると思います。何れを是、何れを非とするものでもないと思いますが、こういう柔軟な考え方に照らしてみると、どうも最近では総論賛成、各論反対の是非の議論が多過ぎるような気がします。確かに色々のクラブがあって良いのですが、世の中の役に立つことを自分の一番好きな道で活動する事が重要な要素だと思います。

従って、私達ロータリアンが活動する上で気を付けたいことは、①無理なく継続できる計画を立てること、②相手や関係者の立場を尊重すること、③約束を守ること等が無理をしないで楽しく長く続けて行く秘訣ではないでしょうか！！

ロータリーでは”NO”“と言う言葉は無いなどと、言い聞かされてきましたが、自分にできることを精神誠意やれば自ずと「超我の奉仕」に繋がって行くものと確信しています。今、私は勝浦ロータリークラブのクラブ会報委員長として“手づくり週報”をパソコンやデジカメ・ICレコーダー等を活用して委員のみなさん方と共に楽しみながら情報収集・校正・印刷作業など行っています。この様にして出来た“手づくり週報”を例会場に運び一人一人の席上に配布する喜びを噛み締めながら、自己研鑽と経費節減等の達成感を追及して活動しています。

最後に私が係わっている、財団法人五倫文庫の活動状況について触れて見たいと思います。



年間計画の主な活動は①読書週間コンクール事業、②データベース化事業、③ぼうぼうあたま「紙芝居」事業です。学校・会社等を退職された方々が中心となって御宿町という小さな地域社会の中で活動を展開しています。

一度、御宿町のホームページを開いて、五倫文庫の”世界の教科書“を検索してください。きっと、ロータリアンの皆さんが子供のころに教わった懐かしい教科書が見つかると思います。ご静聴どうも有難うございました。

これで、私のロータリー情報研究会の発表とさせていただきます。



第六分区 湯原 由雄

茂原中央ロータリークラブ／親睦委員長

### 職業とロータリーについて

1. 自己紹介
2. 僧侶としていかにわかりやすく仏の教えを伝えるかが私がいつも思っていることです。ロータリーで色々な人の話を聴く機会が多いので勉強になり自分も奉仕の実践の場が出来てきました。
3. そこで仏教の“六波羅蜜の布施”と“超我の奉仕”は同じではないかと思えます。

六波羅蜜 布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧

布施 財施・法施・無畏施

ロータリーに当てはめると、財施は寄付、法施は綱領や四つのテストなどロータリー精神を会員同志確かめ合う、無畏施は例会や活動そのものだと思います。

ここで一番大切なことは 布施する人の気持ち精神です。布施行は物心両面の施し、執着心から離れること。他人が喜ぶことで報われる無償の行為、自分の無上の喜びであり、ありがとうと感謝することです。

布施の見返りを期待して施すことは、ギブ アンド テイク で取引です。超我の奉仕は布施行だと思います。それは山中ガバナーが言われている”愛“だと思います。

この実践道場がロータリーと思っています。そしてロータリーの第二標語の「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」が仏教でいう功徳を戴く事ではないでしょうか。仕事に対しても功徳につながっていくことと確信しています。



第七分区 平野 敏右

旭ロータリークラブ／職業奉仕委員・プログラム委員  
千葉科学大学学長

20世紀初頭におけるロータリー誕生の動機は、事業者の倫理を向上させることにありました。その後ロータリアンの活躍で、事業者の倫理は向上してきたはずですが。ロータリーの綱領、4つのテストは、地球の隅々までいきわたりました。事業者が綱領のとおり行動をし、4つのテストに従って言葉を選べば、企業倫理に悖る事業者はいなくなるはずですが、ところが、今の社会について、私達が知りうる情報から判断すると、倫理観のもとに事業を展開しているとは思えないことが数多くあります。ロータリーにおける職業奉仕の思想が普及したはずの現代いったい何が起こっているのでしょうか。

ところで、私は人生の大半を大学での研究・教育に費やし、昨年千葉科学大学の学長に就任したことから、ロータリアンの末席を汚すことになったわけですが、それまでは、ロータリアンの行動規範さえ知りませんでした。その私がロータリアンの野行動に関する意見を述べてよいという機会を与えられましたので、他の世界にいた人間がロータリーに加入させていただいたときに、感じた問題の一環を述べてみることにしました。

報道における話題、宣伝の内容、行政の展開…、私達は毎日多くのことを知らされます。その多くは、私達が深く考えないことを前提としているようで、事業が展開でき、事業者が利益を得ることだけに力が注がれていると言えます。事業者都合の悪い情報は、覆い隠されて、私達に直接伝わってきません。

保険会社の宣伝から、保険に加入することは安心を買うことであり、加入して儲けることではないと言うことが伝わってくるのでしょうか？ エネルギー問題が厳しくなってきたいま、エネルギー消費装置のみの効率だけ あるいはいわゆる自然エネルギーの変換装置の機能

だけが宣伝されていて、エネルギー消費装置の効率を向上させるため、あるいはエネルギー消費装置の製作の多くのエネルギーを投入しなければならず、そのエネルギーが効率向上に節約できる、あるいは自然エネルギーを変換して得られるエネルギーより遥かに大きいことが伝わってくるのでしょうか？また、最近、自動車の効率向上を目標とすると宣言しましたが、その中に多額の経費がかかることを容認する部分がありました。

しかし、経費がかかるということは、広い意味で、エネルギーを消費することにつながります。したがって、効率を良くするために価格が上昇することは、初期のエネルギー投資を増やすということです。乗用車でいえば、乗りつぶすまでに消費するガソリンの価格は現状で200万円です。これが消費するエネルギーの価格です。エネルギー効率を倍にすれば（改良してもほとんど不可能なことです）、エネルギー消費を半分にすることができるといえる。つまり、100万円のエネルギーを節約できるというわけです。ということはエネルギー効率を、倍にできたとしても、同じ大きさ・性能の自動車の価格は、100万円しか高くできないはずで、政府の宣言から、このことは伝わってくるのでしょうか？いま、再びロータリー創設のときに匹敵する事業者倫理の危機のときを迎えたといっても過言ではありません。この危機を乗り切るためには、私達が十分な知識と行動規範を身に付けておかなければならないと考えますが、如何でしょうか？。



第八分区 高橋 利忠

小見川ロータリークラブ／親睦委員

小見川RCの高橋でございます。普段は酒類小売業を営んでいますが、冬季は南部杜氏として、酒造りをしています。4年程前より、先輩ロータリアンの方から、再三入会をすすめられておりましたが、杜氏として蔵に入っており、特に酒造期の半年は、自由に蔵から出るわけにもいきませんでしたので、入会をさせていただくことが、かえってご迷惑になると考えておりました。ご覧のとおり若輩者ですが、家族からも、もっと先になって機会があったら入会させていただければ・・・と言われました。そんな中でも、先輩ロータリアンの方から、ご熱心にお声をかけていただくと共に、ロータリーの活動について

お会いする度に、お話を聞かせていただき、少しずつですが、ロータリークラブに対する憧れ、又 人と人の出会いがたくさんあり、きっと自分自身を磨くことができる・・・と思うようになりました。私自身 徒弟制度が寝付く酒造りの中におりましたので、すごく限られた狭い中でのことしか知りませんし、様々な業種の方との出会いも、ほとんどありませんでしたので「出会い」という事は、特に魅力的でした。そして、晴れて昨年9月より伝統と格式あるロータリークラブに入会させていただくことになり、ようやく2年目をむかえることができました。当初は緊張のあまり、クラブでの食事も、お話もさせていただくことができませんでしたが、委員会活動や移動例会など、様々な場面において先輩からお声をかけていただき、ようやく慣れてきたように思います。

まだまだ、右も左もわからない新人ではありますが、ロータリーには、素晴らしい出会いがあり、日本全国、更には世界各国に仲間をつくれる最良の機会をいただきましたので、ロータリーに対する理解を更に深め、まだロータリーを知らない方たちに少しでも広めていけるようなロータリアンになり、日本の文化を学びつつ一人でも多くの仲間を増やすことができれば・・・と思います。



第九分区 松田 泰長  
成田ロータリークラブ／プログラム委員長

今回このような席で意見発表をさせて戴くことを光栄に思います。

独立起業して17年となりますが、前職を含め いわゆる技術屋としての職業奉仕です。職業分類は電気及び電子工業で、電子機器の委託製造、自社製品製造販売を主たる正業としております。私の勉強範囲での「職業奉仕」とは、8つの「職業宣言」を実行する事、と理解しております。

1. 職業は 奉仕の1つの機会なりと心に銘ぜよ。
2. 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道德基準に対し、名実共に忠実であれ。
3. 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
4. 雇主・従業員・同僚・同業者・顧客・公衆・その他の事業または専門職種上、関係を

持つすべての人々に対して、等しく公正なるべし。

5. 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
6. 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
7. 広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うに当たっては、正直専一なるべし。
8. 事業または専門職上置の関係において、普通には得られない便宜ないし得点を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

この「職業宣言」の内容の中と「4つのテスト」に照らして日ごろ感じていることをお話してみたいと思います。

最近、「納得」出来ないことがあります。委託製造に関して、昨今の流行で数々の認証規格、納入スタイルの変更が求められ、当然かのように書類等の要求をして来ます。たしかに内容は素晴らしいものですが、要求してきている企業の相当数があるからです。社内では認定から外れる作業を外注に出す、社内に貯蔵出来ない薬品を外注先に預かって貰う等々、認証検定日は通常業務の受け入れ、出庫を止め来客も断るに至っては、本来の主旨からは実体がほど遠く、苦笑ものです。

このような所の社長と話をする機会があり彼曰く「もっと期待していたけれど業績が上がらない」とのこと、どうやら認証をとれば受注が増えると思っていたらしく、「納得」して採用しなかった結果が思惑はずれになったようです。

そしてもう一つ対価の支払いに手形を発行する行為です。発行した側は決済までの時間という利益を取得しますが、受け取った側は いわゆる世間で通用する流通券ではないという不利益をうけることとなります。ロータリーに入会させてもらい4年になりますが、「4つのテスト」に出会い、3年前から手形での支払いに対して拒否をさせてもらうこととしました。今までの習慣でこの様な決済をしているロータリアンがもしいるならば、4つのテストの『皆に公平か』を理解して手形長帳は銀行にお返ししてほしいと思います。

お互いが「納得」していなければ、職業奉仕に当たらないと思います。

第2790地区職業奉仕委員会として会員企業では手形発行をしませんという宣言が出来れば素晴らしいことと思います。

今回、この様な機会をいただき、言い過ぎたところはお許してください。

10年後・20年後に自分がどんな人間でいるのが楽しみです。



第十分区 升谷 庸  
柏西ロータリークラブ／

柏西ロータリークラブの升谷と申します。本日は情報研究会に参加させて頂きまして、誠にありがとうございました。私のロータリー暦は、まだ6ヶ月あまりで、まだまだこれからというところですが、4月の入会以来メンバーの皆さんが実に親切で、人に対する思いやりにあふれてる方が多いので本当に驚きました。男性からやさしくしてもらうのも悪くないもんだな・・・と感じております。ロータリーの一員に加えて頂いてありがたいとぞんじております。

さて私の職業体験は20年間に及ぶ国内外の証券会社勤務と昨年3月まで8年間お世話になった不動産管理会社の2つに大別されます。

証券会社は皆様よくご存知の様に、長期産業資本の調達を目的とした金融機関ですが、その営業現場の実体は、私に言わせて頂ければ「タコ部屋」でした。営業成績の数字が全てであり、数字が 人格そのものです。毎日の成績が大きくものを言う世界です。

その企業体質からは、他人に対する奉仕の精神とか地域社会の発展に寄与するなどという発想はどこからも生まれてまいりません。こういう話を良く続けておりますと、会社の儲けや自分の収入以外に関心がなくなって参ります。ある時 ふと私は感じたのです。

「自分はこれまで職業を通して世のため、人のために何もしてこなかったぞ」と このまま この証券業界で自分の人生を終わらせたくないと思いました。

その後20年の節目を機会に自ら会社をやめて、ご縁を頂き柏市で商業ビルをいくつか所有し、自らビル管理会社をやっております会社に転じて、私なりに地域とのかかわりを持つようになりました。しかし、入社してから暫くの間は、私の発想が大企業に毒された頭だったものですから、経営者に叱られ続けました。いわく「自社のことだけ考えるんじゃない」「地域の人々の悪口を言ってはならない。噂を信じてはいけない。」「合理性の追求だけでは地域に根ざした会社はやっていけない」等々私には新鮮なものばかりでした。

そういう教えのもとに 今の私があります。私の職業は教育や医療とかいった社会や地域に直接貢献できる仕事ではありませんが、これまでの職業経験に基づき、さらに研鑽を積み、ロータリーの精神を尊重し、広くも皆様方のお役に立てる様 努めて参りたいと存じ

ます。

ご静聴ありがとうございました。



### 第十一分区 横山 範男

#### 八千代中央ロータリークラブ／職業奉仕委員長

私はロータリーに入会して3年目になります。現在は職業奉仕委員長をしております。

あまり内容のある事ではないのですが、つい最近あった事を話させていただきます。

当社は昨年暮れに上高野工業団地に移転しました。これもロータリーに入会に、様々な方々にお会いした中で、それを契機に共同求人会社に参加しました。その折、人の募集が必要になり福祉事業所の方々が研修として八千代市内の面接会場に来ていました。

当社ブースにも数人の知的障害を持った方が面接の練習をする為に来られました。後日事業所の方から、地理的に近いという事もあり実習させてもらえないか・・・との問い合わせがありました。当社はインテリア材料の卸業をしている為 倉庫内の仕事なら実習してもらえるだろうと承諾しました。倉庫にはさまざまな種類の商品があるので、主にのり・パテ・引手など副資材といった数量のわかり易いものを中心に品出し・品揃え・積み込みの作業をしてもらう事にし、事前に事業所で1ヶ月程商品の名前を覚えてもらったり、当社の印字ラベルに慣れてもらったりしてから、2週間づつ 2チーム（1チーム2名に事業所からの指導員1名）を受け入れ、主に倉庫内の社員が指導にあたり 朝9時～夕方5時までお当社で過ごしました。

9時始業でしたが、8時過ぎには出社し準備に充分の時間をあて 朝は「おはようございます」 帰りには「おつかれ様でした。さようなら」ときちんとした大きな声で挨拶をして帰社していきました。

当社は今まで こういった実習生のうけいれはしていなかつた為、当初はきちんと話さないとか話が通じないとか 同じ事を何度も言う等 かみ合わない部分がありましたが、話はわかり易くきちんと伝えるとか挨拶はきちんとする、返事は「はい」など、あたり前なのに忘れてしまっていた事を気づかされ 私達も彼等から学ぶ点が多くあった事には驚

いてしまいました。特別に 何かを どこかに 誰かにしてあげるのではなく、社内できちんと挨拶や話が出来ることが、外に出た時の基本の姿勢となり まわりをまきこんで良い社会を作っていく基盤になれば良いと思えるようになりました。

自分の会社・自分の業種しか見ていなかったものが、ロータリーに入って他の業種の方々のお話を伺い 今までより広い目を、社会に向けられるようになったのだと自負しております。



第十二分区 細田 昌男  
松戸西ロータリークラブ／ロータリー財団委員長

皆さん、こんにちは。松戸西ロータリークラブの細田と申します。

ひと月ほど前、岡田分区代理から、一枚の書類を渡され、5分ほどスピーチをしてほしいとの依頼を受けましたが、書類を読みますと、私の体験したことのないテーマでございまして、これでは話せませんとお断りしようと思ったのですが、いただいた書類をよく読みますと、内容は各分区に実情に合わせて結構と書いてありました。

そこで分区というより、私個人に実情に合わせて自由に話させていただきます。多少、あるいはかなり本日のテーマから逸脱した話になると思いますが、あらかじめお断りしておきます。

私は、20代の頃、ローターアクトを三年ほどやりました。30代は青年会議所活動を7年やりまして、40代はそういった活動はなにも何もしないでおりました。ロータリーからのお誘いはいろいろな方からいただいたのですが、どうも入会する気になれず断り続けてまいりました。ある時、もう50歳になろうかという頃、地元の町会長さんが訪ねて来られ、この方は私の父親ぐらいのお年でしたが、私に町会の副会長をやってもらいたい・・・とおっしゃるわけです。家内に相談しますと、あなたもそろそろ地域社会に貢献したらと言うものですから、軽い気持ちでお受け致しました。私の町会は約230世帯、一世帯三人平均として700人ぐらいの人が所属しております。組織は町会長がトップでその下に三人の副会長、その他に会計・書記・各委員という構成です。新米の副会長として、二年ほどいろいろな活動をしたわけですが、町会長さんも三期六年勤められて、高齢でもあり、



副会長の一人にバトンをわたして降りたいとこうおっしゃたわけです。そこで役員会が開かれ協議が始まりました。私を含めた副会長三人の中の一人だけロータリアンがおられて、ロータリー暦30年という大ベテランです。年齢も副会長に中で最年長でしたので、誰もがその方が次期会長とっておりました。町会長も一通り説明した後おもむろにその方にお願ひしました。ところが、その方は、折角ですが私は出来ないとお断りになったわけです。その理由としては、来年からロータリーのこういう役職を受けるので、町会長はとて無理だというわけです。ただ忙しいというわけでは、説得力がないと思ったのか、スケジュール表を取り出して、この役職にはこういう日程が組まれているというふうに事細かに説明しだしました。その場にいる役員は全員ロータリアンを知りませんので、そのロータリアンの説明に何とも言いようがありません。私はローターアクトをやった経験もあり、父もロータリアンでしたので多少気持ちは理解できたのですが黙って聴いておりました。町会長も困ってしまい、二番目の副会長に受けてくれるよう願ひしました。しかしその副会長は先輩を差し置いてなるわけにはとさっぱりと断りました。この様子だと次は私に話しがくるなと身構えておりましたが、話がきたら、先輩を二人差し置いてなれませんかと答えようと考えておりました。しかし、さすがに私にまで話は来なかったのですが、役員会の雰囲気も非常に重苦しくなっていました。

それまで黙っていた会計の人が突然口を開きました。その会計の人は、ロータリアンに向かって、あなたはロータリーを何十年もやってきて、何で町会長も受けられないのか、ロータリーというのは地域社会に奉仕する団体ではないのですかといったような内容の事を少し気色ばんで、まくし立てたわけです。発言が終わった後、シーンとなりましたが、やがてそのロータリアンの方は分かりました、町会長をお受けしますと言って、その後2年間立派に努められ、後輩に後を託しました。何故、私がこんな町会の内輪話をこういう場でお話するかというと、この会計の発言が非常に面白いと思ったからです。

いわば、世間がロータリークラブならびにその活動をどう見ているかをかなり代弁しているように私には思われます。今、日本全国に10万人以上のロータリアンがいて、社会のさまざまな分野で活躍されていると思います。職業以外の場、例えば法人会・町会・その他多くの奉仕的な仕事にも係わっておられることでしょう。しかし、ロータリーは奉仕団体というけれど、今ひとつ世間には見えてこない感じがする。奉仕団体というよりは、何やら奉仕をしているらしい団体と言う印象が世間にはないだろうか？ 会計さんの発言の真意はこんなところではないだろうか。

私は何も現在のロータリーのありようを批判しているわけではありません。また、ロータリアンはすべからず町会活動に積極的に参加すべしというつもりもない。只、ロータリーが忙しいから、町会活動はできない・・・というのは、本末転倒ではないかと思う次第です。以上で私の意見発表と致します。



第十三分区 高梨 昇一郎  
野田ロータリークラブ／副幹事

### ロータリークラブに入って感じた職業

私は、第13分区、野田ロータリークラブの高梨昇一郎と申します。

ロータリーにおける私の経歴は、平成14年7月に入会いたしましたので、現在4年目です。初年度が雑誌会報委員、2年目が雑誌会報委員長、3年目が国際奉仕委員長、そして今年度は副幹事をいたしております。

さて、今日は「ロータリークラブに入って感じた職業」についてスピーチをさせていただきます。申すまでもなく、ロータリークラブは、さまざまな職業に従事している会員により構成されており、いわば異業種の人達の集まりということが言えると思います。

では、なぜロータリークラブに異業種の人達が必要なのでしょう。

その答えの中に、ロータリークラブの本質を理解する鍵が存在するものと私は思います。世の中には、社会を良くするためのさまざまな活動が存在します。例えば、学校教育・社会教育・宗教・地域活動・各種ボランティア活動などです。医療活動や文化活動もそうでしょう。

ロータリークラブとこれからの活動の違いを考えて見ますと、構成する人の違いがあげられると思います。ロータリークラブのように異業種の人達が意識的に混在する団体は他に例がないと思います。

ロータリークラブが異業種の人達の集まりを必要とした理由は、発足当時から明確になっておりましたが、今日のような社会情勢に当てはまるかを改めて考えて見ますと、ロータリークラブのメンバーはその地域における各職場を代表する人格・識見ともに優れた人達であって、しかも専門家でありますから、問題の処理に当たっては多角的・専門的・客観的及び総合的に検討がなされ極めて好ましい結果をもたらすことが出来るのであります。時代は変わってもこの姿は ポール・ハリスが当初目論んだ視点と全く変わらないもので

あると思います。しかし、ロータリーの活動にも限界があることは言うまでもありません。政治や経済を主導するような力はなく、また、そのような目的も持ってはおりません。そのように、考えてまいりますと、ロータリー活動の究極の目的は一体何なのだろうか。私は入会当初からこのことを考え続けてまいりました。「奉仕の精神を持って世界に平和をもたらすこと」と言われておりますが、私にはかなり難解の回答でした。

そこで私なりに考え私なりに下した結論は、「ロータリーの活動の目的は社会に力強く下支えすること」というものでした。

それは、主に経済行為などにあてはまることですが、倫理的・道徳的に間違った方向へ入って行かないように、しっかりと監視し、忠告し、阻止して社会秩序を保つことであり、そのことは、ロータリー誕生時のポール・ハリスの主張に合致するものであると私は思っております。

ポール・ハリスが1905年にシカゴにおいて4人のメンバーとロータリー活動を始めるきっかけになったのは、当時シカゴの街は著しく社会経済が発展していましたが、その陰で次第に破壊されていく商業道徳を見るにつけ、強い危機感を感じたからと伝えられております。

さてそれでは、しっかりと社会を下支えするためにロータリアンは何をなすべきなのでしょう。なすべきことは数多くありますが、その一つを考えてみましょう。

まず、ロータリアンは自らが選ばれし人としての自覚を持ち、秩序ある生活をし、公私共に反社会的な行為は断じてせず、そして、自らの仕事に精を出し、例えば会社の経営者であれば、法令を遵守し、環境保護活動に協力を惜しまず、会社発展に努め、社員を大切に、彼らを幸せに導くよう実践していくことであると思います。

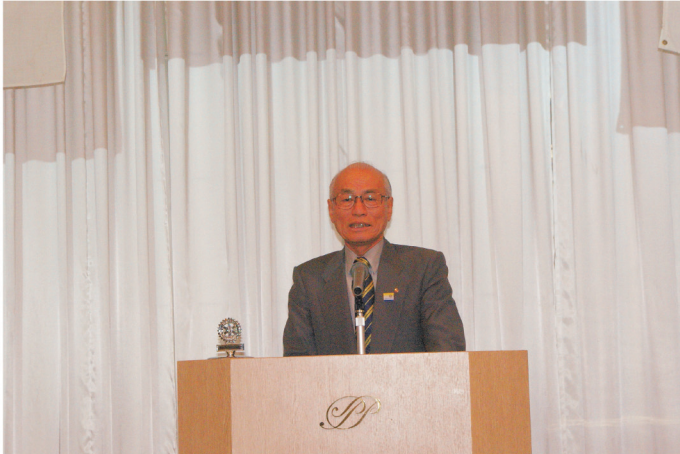
ロータリアン一人一人がこのような実践をして行けば、その相乗効果から、やがて争い事の多い醜い世界が清らかに浄化され、いつかは理想社会が到来するであろうことを私は夢見て今後も活動してまいりたいと思います。

ロータリークラブは今や、世界166カ国、クラブ数32,176、会員数1,214,127人(2004・12・31現在)の巨大な組織になっております。

ロータリークラブの生き方に欠陥があったならば 今日のような繁栄は決してなかったであろうと思うとき、私はロータリークラブの創立精神の正しさを強力に感じずにはいられません。

ロータリークラブの益々の発展と全てのロータリアンのご多幸を祈念いたしまして 私の拙いスピーチを終わらせていただきます。

ご清聴 ありがとうございます。



## 御挨拶

ガバナーエレクト  
白鳥 政孝

来賓と紹介されましたが、私は来賓ではございません。皆さんと同じ第2790地区のロータリアンであります。

現在、次年度ガバナーのための見習い中であります。

ここで、皆様と一緒にロータリアン情報を学ぶ積もりであります。

ロータリアンは誕生以来100年を経過した中であって、先輩ロータリアンは日常生活の規範、とりわけ職業における取引の基盤となる実践哲学を築いてまいりました。私たちは、其の思想をもって「奉仕の理想」の実現に邁進しようと例会で集い、研鑽し合っております。

本日のロータリアン情報研究会は、ロータリアンの神髄であるロータリアンの心を学ぶことが目的であると思います。

私たちはそれぞれ職業を営んでいます。日ごろ、顧客のためになるように懸命に努力を重ねています。この辺りまではロータリアンでなくとも同じであります。ロータリアンとロータリアンでない人との差はどこにあるのでしょうか。

ロータリアンは商行為において職業奉仕で培った心を根底にしている点であります。従って、其の心を養う例会に、ロータリアンであることを自覚し、目的意識をしっかりと持って出席することが肝心であると思います。

例会場は道場であるという所以であります。

一方、ロータリアンは親睦を主とする社交クラブの一面があり、例会場は善意で相和する中に心が癒される場となります。

今日は渡邊パスト・ガバナーのお話を拝聴し、大変勉強になりました。

次年度R I会長のボイドさんはニュージーランドの方で ラグビーを趣味としていますが、ラグビーの合言葉に“one for all, all for one”「一人はみんなのために、みんなは一人のために」とあります。

渡邊パスト・ガバナーが、先程言われました“I am only one, but I am one”と相通じるものがあるように思えます。

これから 今日学んだことを クラブで実践していきましょう。



### カウンセラー総括

カウンセラー  
パスト・ガバナー  
鈴木 雅博

ご出席の皆様には 長時間に渡り真剣に研修にご参加下され、真に有難う御座いました。又、意見発表では、それぞれの方々から素晴らしい御考えをご披露戴きました結果、ロータリーの理解が更に深められた事に相違ありません。

此の度の研修会の大きな効果は、地区全体が一つのステージの中で考え、ロータリーの理解の仕方、ロータリーの見方を地区一体として行う事が出来た点ではないでしょうか。ロータリーに対する考え方、ロータリーに対する想いは様々であり、時として自分の想いに迷いを感じてしまう事も無きにしもあらずであります。地区が一体となってロータリーを研究する事によって考え方が分区内に止まる事無く 広い範囲に行き渡り「ロータリーとは何か」を理解する為の大きな自信となり、「ロータリーの奉仕」の実践の大きな助けとなるものと思えます。

渡邊先生から「職業奉仕」についての基調講演を戴きましたが、職業奉仕の思想こそ社会

奉仕・国際奉仕・クラブ奉仕等「ロータリーの奉仕」の基となる思想であり 類い稀なロータリーの「上質な思想」・「上質な哲学」を学ぶ上で欠かす事の出来ない大切なものと考えて居ります。

渡邊先生から拝聴させて頂きました御高見は、正に、ロータリー情報研究会に相応しいお話を頂戴出来たものと理解致して居ります。

深い感銘を与えて戴きました事に心より感謝申し上げます。

更に、御多用の中御参加下さいました皆様にも 心よりお礼申し上げますと共に、ロータリーの上質な思想・哲学をクラブ会員皆様にお広め下さいます様お願いして、カウンセラーからのお礼と致します。

更に、地区クラブ奉仕・情報委員会の皆さんの御高配にも、厚くお礼申し上げまして総括とさせて頂きます。

## 後書き

開催にあたり様々なご意見を頂きましたが、渡邊パストガバナーの基調講演を始め  
13分区の発表者のご意見を聞き、ロータリー活動における『職業を通しての奉仕』  
が如何に大変かを痛感致しました。

これを機会に職業奉仕委員会とタイアップしながら、ロータリー活動全般が更なる  
発展を祈念致したいと思います。

今回も経費節減のため、原稿を頂き自力で作成致しましたが、充分でない点は どうぞ  
ご容赦下さい。

又多くの会員にご理解を頂く為、第2790地区ホームページで掲載致しますので  
是非ご高覧頂ければ幸いです。

情報委員長 大谷眞夫









# **RID2790**

国際ロータリー第 2790 地区  
情報委員会